



Y K K

読もう書こう考えよう

みなさんこんにちは、図書館担当、司書教諭の伊丸岡です。司書教諭といっても普通に授業担当していますし、給料が高くなるわけでもありません。日々、図書館から〇〇を込めて、「読みましょう」「書きましょう」「考えましょう」と呼びかける仕事を続けていきたいと思えます。読書に関することでも関することでもなくとも遠慮無く図書室へご相談ください。

タイトル横の何やらリボンのような図は、「**メビウスの輪**」です。「読むこと」「書くこと」「考えること」はメビウスの輪のように無限に連関しているという趣意です。



「YKK」も3年目、通巻27号となりました(平均月1回)。

2年前に卒業した学年の週刊の学年だよりは3年間で通巻137号まで書きました。

かつて5年間毎日手書きで書き続けた日刊の学級だより連続約1000号という記録もあります。

手書き時代からワープロ切り貼り時代、パソコン編集の現在まで、まあ、とにかく書いてきましたねえ。

高校時代、生徒のころから学級通信、学年通信を書きました。あるとき、担任が学級新聞を乗っ取ったことがあります。それは、定期考査の成績資料を、ボクが書いている学級新聞のタイトルを付けて発行したのでした。各科目の成績上位者を並べたほか、グラフに各科目の平均点を印刷した上で、各個人の得点を赤ペンで書き入れて、「個人得点通知表」みたいにしたのだ。これには職員室に抗議しに行った覚えがあります。学級通信を成績資料にしないでくれ、と。

今年度の第1号は早めに出してみました。それは、新入生に「図書局」と「新聞局」の宣伝をしたかったという動機があります。少々おつきあいください。

## ⇒ 外局4局

本校生徒会組織の中に「**外局**」というのがあります。本校では**4局**あって、結局薬局郵便局、ではなくて、新聞局・吹奏楽局・図書局・放送局(五十音順)です。ほとんど部活動と似ていますが、部や同好会とは別の、生徒会直属の組織という扱いです。生徒会や学校行事にお手伝いやお役立ちをする組織となっており、他の部活動とは別格扱いなんです。よその学校にもわりとある扱いです。ですから、万一局員不足となっても組織としては残される。図書館だよりですから、ここは図書局の宣伝をしたいところですが、おなじ生徒会外局のよしみで、しかも一昨年度以来現在局員がいなくて、生徒会の広報活動の機能を果たせていなかった新聞局をちょっと宣伝してみたいと思えます(現在2名在籍!)



## ⇒ 新聞局の魅力とは

「新聞部の魅力10選」を「高校生新聞」から引用させていただきました。

- 1 写真撮影や加工の力がUP
- 2 文章力の向上
- 3 新聞の読み方がわかる
- 4 コミュニケーション能力アップ
- 5 礼儀が身につく
- 6 人脈が広がる
- 7 経験値が増える
- 8 水平思考力が手に入る
- 9 チームワークが生まれる
- 10 達成感と責任感が味わえる

ボクの高校時代も新聞局はあり、年何回か活版印刷の立派な新聞が出ていました。20年以上にわたって全道最優秀賞を取っていたはずです。

高2のときだったか、東大出身という校長が赴任したんだよね。「北大くらい入れなくてどうする」と、訳のわか

らんハツパをかけていたらしいのですが、生徒会および新聞局はこれに反応して、「北大、北大という前に、教室の黒板をなんとかしろ!」って、学校新聞でキャンペーンを張った。どういうことかという、当時教室の黒板は端から端まで真っ平らな黒板で、端の方はまるつきり見えづらかった。まず学習環境を整えよ、という生徒の要求だったんですね。すると、まもなく黒板は「湾曲黒板」に更新されていきました。いまのみなさんの教室の黒板と同じです。

じゃあ、みんな「北大」に入るようになっていったかというとなんかに都合よくはいきません。ボクらの世代は「しらせ」「無気力」が蔓延していて、当の校長が自分たちと同じ高校出身(OB)だと知ってもなおかつ「なんで東大まで出て、こんな田舎の校長なんかやってんだ。なんかいわくがあるんじゃないの?」とか言っていた、じつにひねくれたかわいげの無い生徒でした。「〇〇大(某道内の私大)なんかに行って何すんのよ」なんてことも言ってましたね。張り切る人(当時の校長のように)、ハツラツとした人(当時の校長のように)を冷めた視線で眺める感じでした。やな感じですね。そんな高校生だった人間が高校の教師やっていいんだべか(ボクのことです)。

先年、本校の放送局も、「机の大きさ」を巡ってドラマを作っていましたが、そういう身近な高校生活の課題を見つけ、掘り下げ、解決していこうというのは、カッコイイ!ことだよ。

どうですか?あなたも新聞局や放送局、図書局に入って、何となく学校の居心地をよくしてみたいとおもいませんか?

## ⇒ 図書局

高校にしかない教科って、知っていますか?それは「芸術科」や「情報科」です。同じように、高校にしかない部活動というものもあります。図書局もそうです。本校では前述のように、生徒会外局という位置づけて、部活動に類する活動(高文連の支部・全道大会もあります)ですが、学校によっては各クラスから選出された「図書委員会」が高文連に参加しているところもあります。

活動は学校によってさまざまです。本校の場合は詳しくは「部活動紹介」でお聞きください。

運動部でも練習メニューなどは学校、チームによって工夫されているものですが、文化部でも学校によって何をどう取り組むか、千差万別です。授業と違って、あれやりなさいこれやりなさい、ではなく、自分たちで考え、工夫するところが部活動の魅力です。

あなたも生徒会外局で活躍してみませんか?



## 歓迎! 祝入学

新入生のみなさん、入学おめでとう。コロナ禍の中、これまで最高学年として立派にやってきて、ご苦労様でした。これからはしばらく「下級生扱い」で不満もあるでしょうけれど、まあ、少しずつ高校生になっていきましょう。

さて、そんな夢と希望に満ちあふれた新入生諸君に勧めたい本は山ほどありますが、いくつか紹介しておきましょう。

そのうち、新入生向け図書館ガイダンスもあるかと思いますが、きょうからでもご利用下さい。



### 『君たちはどう生きるか』 吉野源三郎 ワイド版岩波文庫

いまから85年前の昭和12年に初版が出た『君たちはどう生きるか』が、数年前にマンガ版も出て再ブームとなりました。何十万部も売れたんですよ、こんな古い作品が。

文庫の棚、作家別「よ」のところに岩波文庫版が、**小論文対策の棚**にワイド版岩波文庫があります(ワイド版の方が読みやすいかも)。



『高校時代にしておく50のこと』 中谷彰宏 PHP

高校生活は、近い将来(ごくごく目の前です)、おとな、社会人になるための準備期間、助走期間、修行期間です。ここでがんばらねばいつがんばる。ここで鍛えた知力・体力・人間力は一生モノ。そんな人生の充電期をいかに過ごすかのアドバイス本です。**小論文対策の棚**にあります。

『10代のための座右の銘』 大泉書店編集部

なにか自分のつかえ棒にしておきたい言葉はないか。そんなときに役立つ本です。古今東西の先人たちの名言が満載。折に触れてひもといてもいいんじゃないかな。これも**小論文対策の棚**に。



『中高生の身長を伸ばす7つの習慣』 佐藤智春 主婦の友社



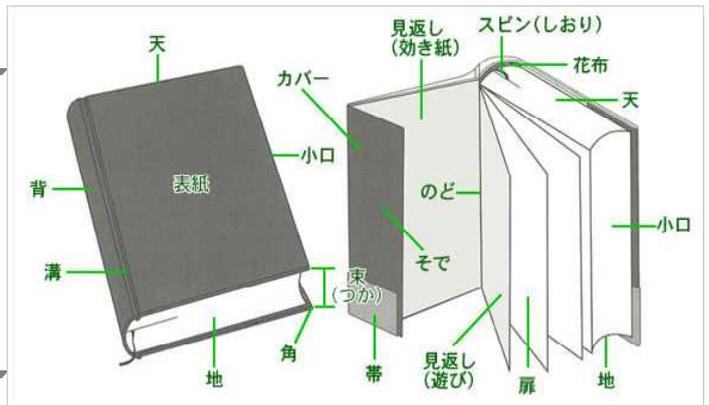
この30年の間、若者の身長は伸びていない。そんな衝撃的なニュースがありました。むしろ、ちょっと縮まっていると。ボクの二十の頃の平均身長は170cmだったそうで、その頃までは年々若者の平均身長は伸びていったそうです。戦後、栄養とか運動などの生活習慣が向上して伸びていったのではないかと言うことです。ところが、近年は頭打ちなのだそうです。ということは、栄養とか運動、生活習慣になんらかの阻害因子が？ まあ、際限なく身長が伸びる訳でもないでしょうけれど。

この本は、もう少し身長を伸ばしたいな、という人に手にとってもらいたいな。**新着図書**の棚にあります。

●覚えておくといいかもしれない

本の部位の名称

- 「背」 「表紙」 「見返し」 「扉」
- 「天」 「地」 「小口」
- 「カバー」 「そで」 「帯」
- 「スピン(しおり)」



『小檜山博「帰って行く母」 昭和文学全集32 中短編小説』 小学館 集英社

ふと**小檜山博**が読みたくって、本校の蔵書を検索してみたら、単行本では**蔵書なし**。『昭和文学全集』の中の1冊にしろうじて短編が1作入っているだけ。他に、三浦綾子全集の中に解説を書いていました。

小檜山博氏は北海道滝上の出身。ことし85歳になる。JR特急車内誌にエッセイを書かれ、好評を博していました(それがまとめられて単行本で出ています)。

ところが～! ほんとは小檜山博さんの本は**11冊もあった**のだ! どういうカラクリかという、他の著作のコンピュータへの入力が、よ～く見ると「小**檜**山博」になっていたのだ! これではいくら「小檜山博」の本を検索しようにも出てこない。小檜山さんの個人全集全8巻もたしかあったはずなのに…。書名、著者名が1字でも異なるとコンピュータは応えてくれない。そういうことだったのでした。

ちなみに小檜山博さんの**色紙**が図書室にあります。

【そうやって眼から溢れる涙を下へ落とさないようにした。 「イタチ捕り」終行 小檜山博】と書いてあります。いついかなる時にいただいたものなのかは不明です。

さて、くだんの『昭和文学全集』に当たってみれば、なんと、**平成元年**の収蔵本なのに、本を開いてゆくと、本の「天」の部分、まだ裁断したばかりの紙の束のように、みしみしみという音がするではないか。よ～く見ると、天の部分には金箔が施されている。いまどきは見られない豪華な造り。これを「**天金**」「**金付け**」といいます。

ボクが持っている『大漢和辞典全14巻』はみな天金。これは、湿気や虫喰い、紙の日焼けを防ぐための工夫らしい。むかしのちょっと立派な叢書や手帳なんかは天金の造本でした(富山房の『漢文大系』とかね)。「天」のほか「小口」や「地」の三方に金箔を施したものは「三方金」というのだそうですが、ボクは見た記憶がないなあ。

この昭和文学全集も、紙も薄く、1冊1000ページ以上もある厚さなので、天金なのかもしれませんが、まあ、バブル期の出版物なのだなあとも思います。

## ～ ことばつれづれ ～

### 元気や勇氣はあげたりもらったりするものか？

とある文筆家のエッセイ本。

むかしは「子どもは元気ではしゃぐものだ」「夏休みにはまっ黒に日焼けするものだ」「男は強くならなければならない」「母は強し」という**紋切り型の言い回し**があったが、近ごろはニューバージョンとして、「がんばらない」「ありのままがいい」「夢をありがとう」「元気をもらった」「勇氣を与えたい」「地球にやさしい」といったものがあるがじつに下らん、と言い切る。

最近の日本人はなにかにつけ「**元気(勇氣)をあげる**」「**元気(勇氣)をもらった**」「同世代に元気を与えたい」と言いたがる。それを言うなら「**元気づける**」「**勇氣づけられた**」でいいのだ。

なるほど。ちかごろオリンピック選手なんかがいう「勇氣を与えたい」、オリンピック観戦者が口にする「元気をもらった」になんとなく違和感があったが、そういうことだったんですね。

### 引き込み現象

「引き込み現象」って、聞いたことあるかな？

同時に行う異なる動きのリズムが、次第にあってくる、ということらしいのですが、平たくいえば、音楽に合わせて体が動いてしまうこともそうらしい。

買物公園を歩いていると、「**街頭放送**」が聞こえますよね。

「**もしものために積み立てよう(ヨイショ)、安心ひとつ積み立てよう(ヨイショ)、もしものためにひとつずつっ〜♪もしもの安心、アイプラン**」

というコマーシャルを聞いたことあるかな？どうもボクはこのコマーシャルと**歩調が同期**してしまいます。恥ずかしいので、このCMが流れ始めたらあえて歩くリズムを崩すようにしていますが。いいおじさんが、「アイプラン」のリズムに合わせて町の真ん中を行進していると思われるのも、幼稚園児みたいで恥ずかしいもんなあ。自意識過剰か？でも、この「アイプラン」のCMの歌詞、見事に**七五調**になっています。つまり、日本語の、日本人の言葉のリズムになっているんですねえ。しかも七五調とは万葉調です。



ところで、「引き込み現象」を活用した勉強法というものもあるそうだよ。踏み台昇降やスクワットのリズムと参考書の読み上げを組み合わせるとか。

### 世界一速く歩く男

ボクは学生時代はとても歩くのが速かった。速い、というよりも、とにかく前を歩いている人がいたら追い越したかったのです。だからドンドンわしわし人を抜いて歩くと、いきおい誰よりも速く歩くことになる。池袋でも新

宿でも丸の内でも、どんなに多くの人があっても、魚の群れをすり抜けるように速かったのです。どんだけ重い荷物を持っていても(帰省の時なんかはいまのようなキャリーバッグなんぞないから、重たいスポーツバッグを肩にかけて)、昇りの階段であっても、どんどん人を抜いて歩き、昇っていたものでした。ただし、下りは不得意で、ダダダダグーッと、トントントントーンと降りるのは今でも無理です。



当時、東京の人はせかせかと歩く姿から、世界一速く歩く国民といわれていました。すると、東京で一番速く歩くボクは、世界一速く歩く男でもあったわけだ。すごい!

それが今では「もしものために積み立てよ~ヨイショ!」だもなあ。

## 手洗い・手指消毒

手荒れがひどい。指先もガッサガサ、爪の近くにはざっくりひび割れが入って、水がしみて痛い……。サビオ(?これ北海道独特の呼び方らしい)の消費が激しい。チョークが原因か? ならば、この職は向いてないんじゃないか?

なんてことをぼやいたら、おんなじですよって、教えてくれた若い先生。ボクだけじゃない、ってことがわかり、一安心。頻繁な「手洗い」の上に「アルコール消毒」にもさらされる昨今、手肌は気の毒だ。

幼い頃、まだハンドクリームだの薬用なんだのと便利なものがそうそう無かったころ、母親はあかぎれのしたボクの手を、洗面器に酒を注いだぬるま湯に漬け込んだものでした。それを思い出し、去年から100均で小さなスプレーを買ってきて日本酒を入れ、肌荒れにひどいときにはそれをスプレーしてハンドクリームを塗る、ということを試しています。よるは、アロエ軟膏を塗りまくって、手袋をして寝ます。週末は手荒れも治ってくるのでありがたいのだが。

## 桜



「さくら」の語源はいくつかの説があるそうですが、「木花咲耶姫(このはなさくやひめ)」説はなんとなく支持したい気がしますね。古事記や日本書紀に出てくる美しい姫です。

「入学式に桜」という定番の図ですが、これは明治政府が始めた学校制度の入学・学年はじめの時期、東京で桜の開花時期であったことから定着したものです(当初はなんと9月始まりだったんですがね)。が、西日本ではもっと開花は早いのだし、北日本ではもっと遅い。必ずしも「入学式=桜」ではないのだね。

さらに、日本人が「花」といえば「桜」というのも、最初からではない。昔々は「梅」だった。奈良時代。万葉集なんかでも、「花を見て」詠んだ歌はみな梅でした。「令和」の出典とされる万葉集のなかの詞書きもやっぱり梅の花。それが桜に取って代わられるのは平安時代からのようです。今年の開花はいつも早い!

## マンスプレイング

朝日新聞別刷り be (3月26日号)の「悩みのるつば」コーナーで、社会学者の上野千鶴子さんが、40代女性の相談に回答しています。相談者のお父さんが「マンスプレイング」だということです。

**マンスプレイング**とは、「(男の)見下したような、自信過剰な、そしてしばしば不正確な、または過度に単純化された方法で女性や子どもに何かについてコメントしたり、説明したりする」という意味の批判的な用語だそうです(ウィキペディアより)。

上野氏の回答では、「相談者のお父さんの仕事は教師?ワンマン経営者?お山の大将でマウンティング取り放題?それともしがない宮仕え?職場でマウント取られっぱなしの意趣返しを家庭で妻と娘を相手にやっている

んでしょうか?どちらにしても小心者。小さなサル山でマウントとって満足してる」と一刀両断。

さらに、「もし部下の言うことに耳を傾けない上司なら、きっと経営はうまくいかないでしょうし、教師なら生徒から慕われないでしょう。教師の困ったところは家庭でも先生の顔を変えないところ。だから家族からも嫌われるんですよ。」ともいう。



自分のことはさておいて、ボクはこういうヒト、知ってます。現職の頃、毎年度はじめの授業で、まず誰か一人をぶん殴る。見せしめだったんだらうと思います。その後1年間、恐怖政治ならぬ「恐怖授業」を敢行するヒトでした。それでいわゆる「授業秩序」を保てる教師という評価を得ていたんだらうと思います。

退職してからも何かと教え子に偉そうで、しまいには年賀状の書き方が悪いと送り返してよこしました。これまで恩師として「師弟」の礼を取ってきたつもりですが、百歩譲って老人特有の頑固さや痴呆が入ってきたのかと割り引いてみても、金輪際、おつきあいは、否、人として関わりは願ひ下げようと心に決めました。ボクは卒業した教え子に偉そうにしたことはないつもりです。だってもう、教え、教わる立場にない、フラットな社会人同士だと思うからです。逆に教え子から教わることだって多くなるはずですよ。

でも、感謝していることもひとつあります。それは、教職の道に進もうと思ったきっかけのひとつがこのヒトのおかげだからです。ボクよりすこし若い世代は、「金八先生にあこがれて」教職を目指した人が多いのだけれど、ボクはそうではありません。わかりにくい授業をする先生、つまらない授業をする先生、暴力で生徒を制圧する先生への反発が、教職を目指すきっかけでした。でも、理想の教師になれたかなあ?暴力だけは振るったことはないけれど。



世の中にはいろんな人間関係があるという、ご参考までに。

### 真夜中の地震に高校生が取った行動



宮城県を中心に発行している「河北新報」という新聞があります。それによると3月16日真夜中に大きな地震があった。その際、かねて約束していた仙台市内の男子高校生2人が、近所の高齢者20世帯あまりを訪問して歩いたという。

あの地震(東日本大震災)の経験から、「震度6以上の地震があったら近所の高齢者を見回ろう」と約束していた2人は、この夜の地震の後、本当に地域の高齢者宅を1時間かけて20軒ほど回った。近所の高齢者宅は把握していたのだという。そして真夜中だけに、懐中電灯を照らして怪訝そうに2人を見た人や、自分よりも高齢の人はいると毒づいた人もいたというが、大半はありがとうと感謝。

いやあ、こんなにもやさしく、勇気と行動力のある高校生もいるんだなあ。

いやいや、この冬には、高齢者宅を除雪ボランティアに当たった高校生や、駅前の駐輪場の雪山の除雪に当たった高校生も、道内にはいたことが、新聞には載っていました。

### 新聞切抜き読み

ここに上げた記事は、図書館前掲示板に掲示中です!

館内には3紙の新聞があります。新聞を読む習慣を!

#### ▼「クリーニング店、利用してますか?」 朝日新聞be 3/19

クリーニング店が減っているという記事です。厚生省の統計では、ピークの1997年度には16万4千店だったのが、2020年度には8万2千店に減っているのだそう。半減で



すね。確かに、この20年間にボクの家の近所にあったクリーニングの取次店が4店もなくなっており、1キロ以上離れたスーパーに入っている取次店まで持っていかなくてはならなくなっています。この記事の通りだと実感します。記事では、クリーニングを利用する人の割合や何を出すか、クリーニング店でのトラブルなどについてまとめています。



Yシャツはクリーニングに「出す派」の人と、「出さない派」に分かれるようです。ボクはむかしから自宅洗濯派なのですが、中学生の頃、詰め襟の学ランの下には白Yシャツを着ましたが、自分でYシャツでもズボンでもアイロンをかけました。技術の先生が、制服の上着は常にブラシをかけろ、ズボンの折り目はびしっとしろ、姿勢正しく歩けて、授業そっちのけで、姿勢や身なりの美しさを強調する先生でした。当時、技術は男子、家庭科は女子のみの授業でした。よく教室内を姿勢正しく歩かされた記憶があります(まるでファッションショーのモデルの歩行練習みたいに)。

ところで、クリーニングですが、いまは工場で機械化され、大量処理が当たり前なのでしょうけれど、ボクはちょっとだけ不満があります。それは「ネクタイ」です。何度出しても、出したときの「ネクタイの締め皺(しわ)」がそのまま返ってくるのです。ネクタイ専用の小さめのハンガーに吊されてそれなりの姿で返ってくるのですが、ネクタイを外した時の「締めた皺」がそのまま。まちがいなくアイロンかけてないと思われます。不思議です。

みなさんは制服のクリーニング、Yシャツ、ズボンやスカートのアイロン、ネクタイなど、どうしてますか？

### ▼「#論壇 『送料無料』の裏 ドライバー苦境」 朝日新聞 3/24

記事内容の前に、「論壇」というコーナータイトルの横に付いていた小さな註に注目。こう書いてある。

#=hash (ハッシュ)「徹底的に論じる」(アメリカ口語)

とありました。へえ、そういう意味なんですか？してみると、このコーナーのタイトルの読み方は、「ハッシュ論壇」なんですかね。

さて、この記事の内容は、元トラック運転手のライター・橋本愛喜さんへの取材記事です。

宅配、ネットショッピングは、近年ものすごい勢いで利用が広まっています。不在がちな働く人に対して、荷物の受け取り方の多様なサービスも進んでいます。それは「再配達」の負担、エネルギー消費回避の問題でもあります。

ネット通販の事業者は増え、巨大化し、競争は激しくなるばかり。その際、謳い文句になるのが「送料無料」。でも、送料って、ホントに無料なの？誰かが負担しているんだよね？モノを運ぶ経費ってそんなに安く付く(タダ同然の)ものなの？



じつは大手の通販業者が売り物にする「送料無料」のウラには、運送業者への**運賃の買ったとき**があって成り立っている。そのしわ寄せは、運送業者ではなく、もっとも荷物に近いドライバーに行く。ドライバーに大きな犠牲を強いた上で、「送料無料」は成り立っているというのだ。そう言われてみれば、その通りでしょうねえ。

ボクはコロナの方、本を通販で注文することが増えました。配達業者は、その都度異なるようなのですが、クロ〇〇便だと、会員登録してあるから、配達前に予告メールが来て、配達時刻を調整することができ、1回で済みます。ところが日本〇便やべつの中小運送業者の場合だとそういうのがないから、まず日中に「不在票」が入っていて、「再配達」してもらうことになります。これが運送業者、運転手の働き方の大きな負担になるそうです。クルマの燃料の空費にもなりますし。荷物を受け取る側にしても、再配達の手続きやその時間帯の在宅など煩わしさがあります。いまのところ再配達は無料ですが、そのうち、再配達手数料が取られるようになるかもしれませんね。

▼「親知らずの歯 抜いた方がよいか 医療と健康 みんなの相談室」 北海道新聞 3/2



そうかあ、そういうことだったのね、親知らずって。だれかもっと早く教えてくれればよかったのに……。そんな記事でした。

歯医者ももうすこし丁寧にいろいろ教えてくれればいいと思いますね。ただただ「もう少し丁寧に磨いてください」とはいうけれど、本人はいたって丁寧に磨いているつもりだったりする。

どういふことをすれば、どういふ状態がこういふ風に改善される、というようないふ説明をすればいいと思うんですが。

▼「大学入試『情報』 どう準備」 朝日新聞 3/29

2025年度の大学入学共通テストに新設される教科「情報」についての記事。今年度の1年生が受ける入試からと申すことでしょうか。

記事では、すでに入試に「情報」を取り入れている高知大、京都産業大の報告を記載。京産大では、AO入試のひとつとして16年度から筆記試験を導入したのだが、初年度は満点が続出するなど、「難易度の肌感覚がなかなかつかめなかった」といふ。ほほう、入試問題は「肌感覚」で作っている。なんじゃい、それは!と突っ込みたくなるコメントでした。ボクらは定期テストなどは「肌



感覚」なんかで作りゃあせんです。これは勉強しておいてほしい、これは理解しておいてほしい、これはちゃんと論理的に説明できてほしい、という意義目的を持って1問1問、問題作成をしている(つもり)ですがねえ。

全国の高校の先生方が困っていることとして、「テキストと問題集がない」ことで、「どう授業を進めていっていいか困っている教員もいる」といふ。

たしかに「情報教育は文理を問わず大学の教育研究の基礎。情報社会の発展に不可欠」といふ意見(東大教授)には賛成だが、「共通テストに入れれば情報科教員の採用が進み、情報教育の地域格差の解消が進む」といふ考え方は、逆なんではないだろうか、と感じた次第。

ともあれ、1年生諸君はもう何年も情報通信技術の扱いに慣れてきているはず。がんばってください。

**\*\*リクエストを\*\***

第1期の購入図書リクエストを募ります。第1期のスケジュールとしては、予算額の決定時期にもよりますが、おおむね夏休み明けに貸出ができる、という流れになると思います。第2期は、冬休みに入る前に貸出ができるよう、リクエストの集約をしていきたいと思ひます。

◎調べ学習に必要、進路関連学習に必要、小論文に必要、教科に関わって必要、ぜひ読みたい、気になっている本、紹介された本等々、購入リクエストをしてください!

◎続刊ものは入れていきます。

◎マンガは「教科・学習に関するもの」「部活動に関するもの」「続刊」は受け付けます。新規に関しては検討させていただきます。

**通常期の貸出**

**昼休み・放課後16:30まで**

1週間、3冊まで! (延長したい場合は一度返却の手続きを)

**そうだ! 図書館へ行こう!**

**へば 図書館さ行くべ!** (Tsugaru version)

(文責 伊丸岡圭一)